



☆全校研究会でグループ協議の内容や指導助言を紹介します。

協議テーマ

- ・自分から気付いて考え、行動するにはどのような支援があればよいか。

★単元名★

中学部2年1組 生活単元学習「作ろう、楽しもう！みんなのゲーム2～ビッグジェンガにチャレンジ」

★授業説明★

- ・9月の事前授業研を受けて、振り返りの際画像を提示すること、全体のめあてを提示してから個々のめあてを決めること、支援者の適正数について改善した。
- ・本時の生徒のめあてについては、達成できたと感じている。
- ・教師の評価については、友達の頑張りを共有するための支援が不足であった。



★協議から★

- ・ゲームを盛り上げるために、ルールの変更やチーム戦にしてはどうか。
- ・生徒が役割を交代することで、新しい展開や生徒の気づきが促されるのではないか。
- ・生徒が実感できる評価と、分かる、実感できる単元のまとめ方の工夫を。



<指導助言> 秋田県総合教育センター 主任指導主事(兼) 班長 宮野 俊実 氏

1 障害特性(記憶力への配慮)について

知的障害をもつ子どもたちは、長期記憶やワーキングメモリが弱点の子が多いため、繰り返しの学習が大切であり、記憶に留めるためには、タイムリーに褒めて強化する「即時評価」が効果的。また次時へのつなぎ、期待感を含めた「振り返り」も工夫が必要となる。子どもたちは、活動中は夢中になっており、振り返りの際に自分が頑張った場面を思い出せないことがある。記憶力への効果的な支援として、iPadに記録した写真や動画を活用してほしい。更に「形成的評価」があるが、今回の授業であれば、1回目のジェンガが全員終了したところで、めあての振り返りを全体ですればよかった。そうすることで、個々のめあての再確認ができ、2回目の意欲につながると思われた。

2 言葉遣いについて

すぐに答えを教えるのではなく、子どもに気付かせることで記憶に留まりやすい。また、教師の言葉が子どもの中で、意味のある言葉として使えるようになっていた場面が見られた。楽しい活動は、活動と言葉がマッチするので、教師のコメントの中で意味のある言葉や、教たい言葉を意識して盛り込んでいくことが大切である。ただ教師が指示や注意を出し過ぎるのは、子どもが考えるのを妨げるので、たくさん掛ける言葉とそうでない言葉を精選する必要がある。

3 単元目標について

「自分や友達の良いところ分かる」については、振り返りの場面で生徒たちにもっと考えさせるようにしてもよかった。自己理解や他者理解、話し合い活動のスキルの向上等は、十分な時間と経験が必要なところなので、小さいうちからいろいろな機会を捉えて指導していくと良い。

4 生単(合わせた指導)と各教科の関連について

他教科との関連では、中学部の社会科とつながっている「生活科」の内容を踏まえていなければならない。授業で実施していなくても、生活科や社会科の内容を生単に取り入れていくという考え方が大事である。指導要録には、各教科や合わせた指導の中で「国語」の内容を取り入れていれば、「国語」の欄に評価を書くことができる。

協議テーマ

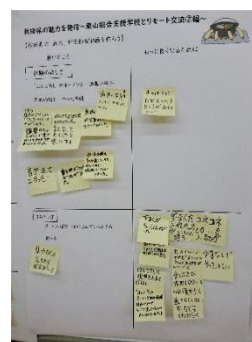
- ・生徒が自分で考え、判断して行動するための手立ては適切であったか。

★単元名★

高等部3年 生活単元学習「秋田の魅力を発信～東山総合支援学校とのリモート交流②編～」

★授業説明★

- ・秋田県の「魅力」については、生徒から「秋田県にしかないもの」というキーワードが出され、東山総合支援学校からも知りたいと要望があった「なまはげ、きりたんぼ、田沢湖、武家屋敷」を取り上げ、具体的に何を魅力として紹介するかという話し合いを行った。
- ・改善の意見を出すことが難しい生徒がいたため、動画制作と小道具製作の2グループに分かれて活動を設定した。
- ・これまでの経験で、生徒だけで話し合いを進める力が付いてきたと感じている。
- ・教師の働き掛けとして「どうしてそう思うの？」など理由を尋ねる問い掛けができれば良かった。



★協議から★

- ・そう思った理由を整理し、意見交換（対話）ができるように、思考を深めるための教師の働き掛けが必要ではないか。
- ・伝えたいこと＝秋田の魅力の明確化。動画制作にも話し合いにも必要ではないか。
- ・動画制作については、伝え方の参考になる見本を見て学ぶ機会があれば良い。
- ・2グループに分かれての活動であったが、互いに頑張りやを伝えられるようにじっくり時間を取って振り返りができると良い。別々の活動であっても、一体感があると良い。

<指導助言>

秋田県総合教育センター 指導主事 北島 英樹 氏

1 授業について

- ・今回の授業は様々な場面から生徒たちの意気込みを感じた。生徒自身の「作りたい」という発想や「もっと良い動画にしたい」という思いが、話し合いでの改善案が書き込まれた付箋の数につながっていたように思う。小道具製作グループの生徒たちも得意気に製作物を紹介し、達成感に満ちあふれた表情が見られ、良い授業であった。
- ・9月の事前授業で改善点として挙げた「活動のメリハリ」については、今回は活動により場所を変え場面の切り替えができていた。
- ・生徒の思いに寄り添った単元構成や活動の工夫があり、成果につながっていた。今後はグループ協議でも提案されたように、振り返りを含めて生徒たちが話し合いを深められる工夫があるとさらに良い。

2 教師の専門性を高めるために

- ・新学習指導要領解説等でも述べられているように、子どもが「何ができるようになるのか、何を学ぶか、どのように学ぶか」という視点からの授業研究が大切。評価についても学習者としての子どもを、前述の視点で知的障害のある児童・生徒の学びの質や変容をしっかりと見取ることが大切。
- ・研究テーマにある「学びの過程、内面の育ちに注目」については、教師の専門性が問われる重要なキーワードである。生徒の行為の意味について自分なりに解釈し、いろいろな意味について教師間で解釈し合い、互いの見方を知ることが大切。
- ・教師の専門性を高める方法の一つとして「エピソード記録」がある。人によって見方が異なることを前提として、まずはエピソードを書き留め、それを「開く」ことが子どもの理解につながる。記録を通して行為の意味を解釈して、いろいろな意味や教師間の互いの見方を知ることができるが、正解を求めるものではない。子どもを理解するために「私」を見直すことが大切である。